

言葉の瓦版

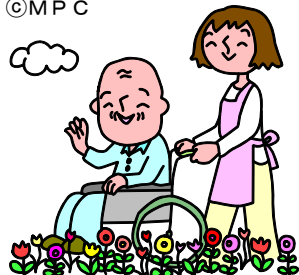
第 8 号

編集：適寿リハビリテーション病院

言語療法室

発行：平成22年 6月 15日

©MPC



今回は、前号より特集している「高次脳機能障害」を引き続きお届けします。「高次脳機能障害」とは、脳卒中（脳梗塞・脳出血）や脳の病気などの影響により、見たり聞いたりする内容がうまく理解できず、素早い判断が難しくなったり、行動に移す指令がうまく出せなくなる障害です。

第7号では、5種類の高次脳機能障害に対してのリハビリや、接し方など紹介させていただきました。

第8号でも引き続き、高次脳機能障害に対してのリハビリや、接し方などについて、じっくり見ていきます。

高次脳機能障害とは

STが行っているリハビリテーション

☆ 高次脳機能障害には、第7号でご紹介したように様々な種類があります。障害の種類によってリハビリテーションや対応方法も一つ一つ違いがあり、患者様によっても違ってきます。ほんの一例になりますが、まずは、具体的にどのようなリハビリテーションを行っているのかを見ていきましょう。

しつこうしょう 失行症

麻痺などの運動制限が無いのに、日常の簡単な動作がうまく出来なくなります。

- ・ 歯ブラシやクシなどの日常生活に必要な道具を、使用する練習を繰り返し行います。
- ・ 道具の使用法や位置関係などを声に出して確認してから動作に移るようにします。
- ・ いくつかの道具を合わせて使う場合には、使う順番を道具に貼り、使用順序を確認していきます。

しつごしょう 失語症

言葉が出てこない、言葉の意味がわからない、読み書きが出来ない、などの言葉の障害が出ます。

- ・ 聞く力をつけるために、聞いた言葉に対応するカードを指差す等の練習をします。
- ・ 話す力をつけるために、カードに書かれている物の名前を言う、情景画をみて説明をする等の練習をします。
- ・ 読む力をつけるために、文字に対応する絵を選ぶ練習等をします。
- ・ 書く力をつけるために、名前や住所を書いたり、絵カードをみて文字を書く等の練習をします。

きおくしょうがい 記憶障害

過去の出来事を思い出せない、新しい出来事を覚えられないなど記憶の力が弱くなります。

- ・ 日記をつける、予定をメモする、アラームを鳴らす、はり紙をする、手帳を持つなど記憶の代わりになるものを日常生活の中に取り入れる練習をします。
- ・ 一日の流れをある程度決めて、毎日繰り返し行うことで習慣化させていきます。
- ・ 絵カードや単語などをいくつか覚えて、後から思い出す練習をします。



©MPC

しつにんしょう 失認症

視覚、聴覚、触覚の機能に問題が無いのに、それが何であるかわからなくなります。

- ・ 保たれている感覚を使って、歯ブラシなどの道具を実際に使用していく練習をします。
- ・ かるたや裁縫道具など過去に使用したことがあるものを、個人的な思い出と結びつけることで理解できるようにします。

こうどうとじょうちょうのしょうがい 行動と情緒の障害

情緒や意欲の調整がうまくいかず状況に適した行動がとれなくなります。

- ・ 深呼吸をしたり、その場を離れるなど、感情をコントロールできる方法を一緒に考えます。
- ・ 生活の中での具体的な場面をあげて、適切・不適切な言動を判断してもらいます。

では、どのようにして接すればよいのでしょうか？

☆ まずは、STが行っているリハビリテーションについて紹介しました。ここからは、日常生活の中でご家族や身の回りの方が、どのような声掛けや対応をすればいいのか各障害ごとにみていきます。ここでご紹介する内容も、ほんの一例になりますが参考にいただければと思います。

しっこうしょう 失行症

- ・毎回同じ道具を使用するなどして、できるだけ自然な状況でその動作を行えるようにします。
- ・動作を確実に行う為に、実行する動作をそのつど言葉にしたり、紙に書いて確認します。

きおくしょうがい 記憶障害

- ・何かを記憶する時は、不安感や困惑などの心理状態が悪影響を及ぼします。そのため周囲の人はそれらに配慮し温かく接することが大切です。
- ・日常生活の予定を立てたり、スケジュールを確認することにメモリーノート、アラーム、手帳、貼紙、カレンダーなど記憶の代わりになるものを使用します。
- ・身の回りのものは同じ場所にしまうようにして、混乱を防ぎます。

しつにんしょう 失認症

- ・この障害の程度は様々で、「目が見えないのではないか？」というように他の病気と勘違いされやすく、症状がわかりにくいのが現状です。そのため、状態をよく理解した上で本人とよく話し合いどの程度まで援助すべきかを決めることが大事です。また、本人のプライドを傷つけないように援助することも大切です。

しつごしょう 失語症

失語症の人の話を聞く時

- ・先回りしないで、待つ
- ・はい／いいえで答られる質問をする
- ・誤りを訂正しない
- ・写真や絵、文字などから選んでもらう

言葉の意味を理解したり、言葉を頭にとどめておくことが難しくなるため、早口で話す、ひとつの文が長い、回りくどい表現を使うことなどは不適切とされています。

失語症の人に話しかける時

- ・ゆっくり、はっきり話す
- ・短くわかりやすい言葉で話す
- ・表情や身振りを添えて話す

ことばが浮かんでこない、違うことばが出てしまう、いえる時といえないときがあるなどのため、次々と質問をしたり、「何？」「誰？」「どこ？」「いつ？」「どんな？」などの質問の仕方は不適切とされています。

こうどうとじょうちょうのしょうがい 行動と情緒の障害

- ・感情的になっている場合は、冷静になるために時間を空ける、感情を受け止めた返答をするなどの対応をとります。
- ・不適切な言動をされた場合は、適切な言動を具体的に声かけをします。

次回（9号）は、高次脳機能障害を持つ方の社会的背景についてです。

高次脳機能障害の方が活用できる制度や、関係している諸機関はどのようなものがあるのかなど、具体的にみていきたいと思います。